

## 三期生合格・内定体験記～後輩たちへのメッセージ～

### ◇ 鹿児島県立短期大学 商経学科 経営情報専攻 商業科(末吉中出身)

私は、入学時から3年生の4月までずっと専門学校に進学したいと考えていました。しかし、1学期にあった三者面談で県短を薦めていただき、興味をもち、オープンキャンパスに参加しました。オープンキャンパスでは、マーケティングのミニ講義を受けました。高校で商品開発について学び、実際に携わることができたので、講義内容にとっても面白みを感じ、ここに進学したいと思うようになりました。

夏休みにあった三者面談では受験することを決め、そこから受験科目であった小論文の練習が始まりました。自分が今まで気にかけていなかった地域の問題点やそれに対する解決策、少子化対策や情報化社会について、とにかく様々な視点をもって取り組みました。それと同時に、経済関係の問題が多かったため、新聞やニュースを見たり、経済用語の勉強をしたりしました。しかし、受験のある11月になっても、思うように小論文が書けなかったり、面接で思うように答えることができなかつたり、いろいろな壁にぶつかりました。それでも、先生方や周りの友だちの応援があって、また、「なんとしても合格したい。」という強い気持ちがあって、最後まで頑張ることができました。本番では、かなり緊張はしましたが、取り組んできたことをすべて出し切ることができました。

1・2年生の皆さん、自分の将来を決める大切な進路選択で焦ることのないように、たくさんのオープンキャンパスや職場見学に参加してみてください。その学校や企業について詳しく知ることができたら、進路について深く考えることができ、周りより早く対策することができます。また、資格取得に励んだり、ボランティアや委員会に積極的に参加したりすることで自分の視野を広げることができます。今、いろいろな経験をしておいて無駄なことは絶対ないと思うので、一つひとつに一所懸命になって頑張ってください。

### ◇ 宮崎県警察官 機械電子科(財部中出身)

私は小学生の頃から警察官に憧れをもっていた。そして、3年生なり本格的に公務員試験の勉強に組み始めた。公務員試験では、出題科目が18科目もあり、私の所属学科では学ばない科目がたくさんあった。しかし、私の学年から、公務員をめざす生徒を集めた「チーム公務員」が結成され、こういった学校のサポートもあって、授業で学ばない科目も指導を受けることができた。

実際に始まってみると、想像以上に大変な生活を送ることになった。普段の授業で学ぶ勉強と並行して、

公務員試験の勉強も行わなければならないからだ。また、私が受験した宮崎県警察官は倍率が4倍近くあり、落ちたときのことを考えると、試験に向けて、勉強するのが精神的にきついものであった。

小論文や口頭試問の対策は思うようにいかず、とても苦労した。しかし、口頭試問に関しては、他校と比べると有利であった。その理由は、「チーム公務員」として、担当の先生からアドバイスを頂いたり、他学科の生徒と一緒に質疑応答の練習をしたりすることができたからだ。このことは本番でも大きな自信につながった。他にも、友だちから質問をしてもらい、自分に足りない部分を修正することに力を注いでいった。試験本番で緊張して普段の力が出せないかもしれないと不安にもなったが、繰り返し練習したり、勉強したりすることで「自分なら大丈夫だ。」という思いをもち、試験に臨むことができた。簡単に諦めず、最後まで粘り強く取り組めて本当に良かった。「チーム公務員」の先生方や仲間に感謝したい。

### ◇ 中部飼料株式会社 畜産食農科(宇都中出身)

私が就職先を考えたとき、最初に思ったことが、地元貢献したいということでした。若者が減少し、さらに都会に流出している現状を見て、なんとかしたいという思いがありました。

企業について具体的に調べ始めたのは部活を引退してからでした。昨年度の求人を見て、企業を絞っていきました。7月に入り、今年度の求人を見ると、気になる企業はすべてコピーし、家族と話し合いました。その中で、この会社は地元で工場があり、調べると右肩上がり業績を伸ばしていました。また、高校で食品加工を学び、食の安全に関わりたいと思っていたので、第1希望の会社として考えるようになりました。

入社試験は一般常識、適性検査、面接がありました。一般常識は、テキストやSPI問題集で勉強しました。また、新聞やニュースを見て、時事問題にも対策をしました。今思えば面接練習がいちばん大変でした。進路の講演会や面接練習会で様々なことを学び、今までいかにいい加減な、お辞儀・挨拶・振る舞いであったかを思いさせられました。いろいろ挫けそうになりましたが、想定問答をたくさん考え、練習を重ね、先生方に納得していただけるレベルまでもっていくことができました。数をこなすことで自信もつき、本番当日も落ち着いて臨むことができました。

後輩の皆さん、一日も早く進路先を決めて、準備を始めてほしいと思います。周りのライバルと差をつけましょう。そして、できれば地元で就職して地元を盛り上げてほしいと思います。期待しています。